

6 1年間の取組を振り返って

平成26年度防災教育モデル実践事業のモデル校に指定されて、1年が経過しました。

最初は戸惑うことばかりで、何から始めていいのか全く見当もつきませんでした。思い浮かべるのは、東日本大震災のニュース映像ばかりで、まず考えたことは、被災地の視察に行きたいということでした。今思えば、多くの経験と知識を積むことができ、本校における防災教育の礎ができたと確信しています。その成果と課題について振り返ってみたいと思います。

第1に防災避難訓練の改善です。

今までは、地震や火災の発生時間をあらかじめ決めて、各教室を起点にして、決まった経路で避難していました。しかし、現実には、いつどこで何をしている時に災害が発生するかはわかりません。机上の訓練では命を助けることができないのです。そこで、職員にも生徒にも予告をしない、抜き打ちの避難訓練に取り組みました。今いる場所と、災害発生地によって、当然避難経路は変わります。従って、「災害発生時におけるマニュアル」を職員用と生徒用に分けて、常に携帯するようにしました。失敗することを恐れずに取り組むように心がけたのです。臼杵高校の最大の成果は、本気度が増したことです。本気で取り組むことによって、失敗を恐れない強い気持ちと的確に判断する力を身につけることができました。

第2に共助の意識です。

臼杵市総合防災訓練に参加して、避難所運営訓練を経験しました。その時に感じたことは、避難してくる地域住民の多くが、高齢者や若い子どもたちであったということです。特に昼間は顕著で、本校生徒の力がいかに頼りにされているかということがわかりました。自らの命が助かるだけでなく、この町で貢献できることを確認することができました。被災地視察でも感じたのですが、若者のエネルギーや柔軟な発想が、閉塞感を打ち破るとともに明るい未来を示唆しています。この町で共に生きているということを強く感じることができました。

最後に・・・

わたしたちは気仙沼や陸前高田を歩き、住民の方々と語り、町のおいを感じてきました。そこで感じた多くのことを多くの人々に伝えています。義務とか責任とかでなく、自然と伝えなければいけないという気持ちになります。大事なことは、忘れないこと、継続することです。

臼杵高校の防災教育は、今始まったばかりです。向上心を忘れることなく、ひとつひとつ積み重ねていきたいと思います。